愛知学院大学 第115回モーニングセミナー 2015年10月13日(火)7:00~8:30

「琳派」～400年にわたる美の系譜～

愛知県立芸術大学 講師　本田光子

はじめに　「琳派」とは？

・比較：狩野派

・美意識で結びついた、ゆるやかで多彩な系譜

1．光悦と宗達（江戸時代初期）

本阿弥光悦　永禄元年–寛永14年（1558 – 1637）

本阿弥家＝刀の拭い、研ぎ、目利き。

書、陶芸に秀でた、町衆の代表的文化人。

元和元年（1615）鷹峯拝領。信仰を基盤とする芸術家村か。

俵屋宗達　生没年不詳

絵屋（または扇屋）の「俵屋」を主宰。光悦と合作も。

町絵師から、後水尾院の文化圏で活躍するように。「法橋」叙位。

画風の特徴：クローズアップ、トリミング、「たらしこみ」

＊光悦書、宗達下絵「鶴下絵三十六歌仙和歌巻」（京都国立博物館）

＊宗達「蓮池水禽図」（京都国立博物館）

＊元和7年（1621）頃　宗達 養源院の障壁画制作

2．光琳・乾山（江戸時代前期）

尾形光琳　万治元年–享保元年（1658 –1716）

高級呉服商「雁金屋」の次男。若い頃は能に没頭。父没後に家業は傾く。

主なパトロン 二条家など公家、酒井家など大名家、銀座年寄中村内蔵介など町人。

一時期江戸に滞在するものの、京都で活躍。光琳模様が流行。

尾形乾山　寛文3年–寛保3年（1663 –1743）

光琳の弟。兄光琳と異なり文人の気質あり。

京焼の野々村仁清に学び、自ら開窯して作陶。兄光琳による絵付作品も。

窯は京都鳴滝、同二条丁字屋町、江戸入谷に。一時期、下野国佐野へ。

＊ 光琳「燕子花図屏風」（根津美術館）と「八橋蒔絵螺鈿硯箱」（東京国立博物館）

＊ 光琳「紅白梅図屏風」（MOA美術館）

＊乾山「松波文蓋物」（出光美術館）

3．抱一と其一（江戸時代後期）

酒井抱一　宝暦 11 年–文政 11 年（1761 –1828）

姫路藩藩主の家系に次男として生まれる。家督を継がず、37 歳で出家。

若い頃より俳諧で活躍。絵も工房を営み弟子を抱えて制作。

文政 12 年（1815）光琳百回忌を営む。以後も光琳の顕彰につとめる。

鈴木其一　寛政 8 年–安政 5 年（1796 –1858）抱一の弟子。師とは異なる画風も。

＊抱一「夏秋草図屏風」（東京国立博物館）

＊其一「朝顔図屏風」（メトロポリタン美術館）

＊其一「柳に白鷺図屏風」（エツコ＆ジョー・プライスコレクション）

4．近・現代の「琳派」

明治の光琳ブーム・・・海外での光琳人気を逆輸入

大正の光悦・宗達ブーム・・・天才像

浅井忠（アール・ヌーヴォー）、神坂雪佳

原富太郎（三渓）サロン、日本美術院（岡倉天心、アーネスト・フェノロサ）

横山大観、菱田春草、今村紫紅、小林古径ら

名称「琳派」の普及

尾形流、光琳派、宗達・光琳派…　⇒「琳派」（展覧会、美術全集など）

宗達・光琳・抱一の「風神雷神図屏風」同時展示

現代へ・・・琳派デザイン

田中一光　「JAPAN」　宗達が『平家納経』補修時に描いた鹿

平成 16 年（2004）東京国立近代美術館「琳派 Rimpa」展

★ 手軽に読めて一歩深く知る おすすめの本

琳派全体

『年譜でたどる琳派 400 年』河野元昭監修、奥平俊六・中部義隆・玉蟲敏子・並木誠士（淡交社、2015 年）

『すぐわかる 琳派の美術』仲町啓子監修（東京美術、2012 年）

絵師ごと

『もっと知りたい 本阿弥光悦』玉蟲敏子、赤沼多佳（東京美術、2015 年）

『もっと知りたい 俵屋宗達』村重寧（東京美術、2008 年）

『もっと知りたい 尾形光琳』仲町啓子（東京美術、2008 年）

『もっと知りたい 酒井抱一』玉蟲敏子（東京美術、2008 年）